

# 提 言 書

## THE DIVERSITY OF 酒田 YEG!

多様な価値観で地域に新しい文化的創造を



令和元年 7月  
酒田商工会議所青年部

## ご挨拶



酒田商工会議所青年部  
会長 佐藤 一則

私たち酒田商工会議所青年部(以下、酒田YEG)は、創立以来30年以上の長きにわたり、青年経済人として、地域の経済的発展の支えとなり豊かで住みよい郷土づくりに貢献するべく、諸々の活動を行って参りました。

今年度は、「THE DIVERSITY OF 酒田YEG! ～多様な価値観で地域に新しい文化的創造を～」をスローガンに、日々の活動を行っております。

商工会議所とは、「その地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することを目的とする(商工会議所法第六条)」団体であり、その目的を達成するために、「商工会議所としての意見を公表し、これを国会、行政庁等に具申し、又は建議する(同法第九条)」団体です。私たちYEGは、その活動の一翼を担う存在と位置付けられています。

経済も、教育も、法律も、その前提となる「人々の考え方」に至るまで、私たちの社会は、基本的に人口増・成長市場を前提に構成されてきました。ところが、本格的な人口減少社会を迎えたことで、あらゆる側面においてこれまでの「当たり前」が通用しなくなってきています。そんな時代である今だからこそ、求められるのは、新しい地域経済の在り方・新しい価値観の醸成・新しい文化の創造ではないでしょうか？

私たちが青年経済人として、日々の活動を行う中で感じたこと、責任世代として地域の未来を見据えた時に考えることは、「必ずやこの地域にプラスの効果をもたらせる」そのように考えています。そして、その内容を具体的に「提言」という形で発信することは、この地域の新しい在り方に対し有意義なものになる、そう信じています。

そこで今年度は、酒田YEGとしては初めての試みとなる「提言書の作成活動」にチャレンジして参りました。そして今ここに、その「提言書」が完成に至った次第です。今回の「提言書作成」を主たる事業と位置付けて活動してきた酒田Activate委員会による渾身の提言書となっています。長文とはなりますが、最後までお目通しいただければ幸いです。そして、この内容が、私たちが愛してやまない「酒田」、新時代におけるその発展の一助になれば、この上なく幸いに思います。

結びになりましたが、本提言書作成にあたりご支援・ご協力を頂きました全ての皆様に、心からの感謝と御礼を申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

## Activate – 【あくていべいと／æktəvèit】

[動詞／他動詞]

1. 活動的[活発]にする；
2. 〈装置などを〉稼動[始動, 起動]させる；
3. 《IT》〈パソコンを〉立ち上げる, 〈パスワードを〉認証する；
4. 《物理》〈分子などを〉励起(れいき)させる, 高次のエネルギーレベルへ上げる；
5. 《化学》活性化する, 〈反応を〉促進する

### 本書について

当団体の名称については本書における一番最初の正式名称の標記を除き、すべて「酒田YEG」の表現を使用しております。

本書の内容ならびに文章は酒田商工会議所に帰属し、個人の使用を除き、事前の許諾が必要となりますのでご注意ください。

# 酒田Activate委員会 (平成30年度～令和元年度)

## 主な活動記録

平成30年6月28日(木)	<p>－ ダイヤモンドプリンセス(以下、DP※1)来航に伴う勉強会 / 於:酒田産業会館</p> <p>①甲冑・着物着付け練習・シミュレーション(ゲスト:酒田市交流観光課 池田 郁雄 氏)</p> <p>②酒田の観光スポット勉強会(講師:酒田市観光ガイド協会 会長 佐藤 恒夫 氏)</p> <p>③英語対応ブラッシュアップ勉強会(講師:Hidden Japanディレクター 山下 デレック 氏)</p>
7月1日(日)／17日(火)	<p>－ DP酒田港 寄港時のおもてなし(第1回目) / 於:中町クルーズ・マーケット</p> <p>－ DP酒田港 寄港時のおもてなし(第2回目)</p> <p>おもてなし内容(※2): ①観光案内所 受付 ②レンタサイクル貸出対応</p> <p>③甲冑・着物着付け体験</p>
11月13日(火)	<p>－ 11月例会「政策提言フォーラム」 / 於:ホテルリッチ&amp;ガーデン酒田</p> <p>パネルディスカッション:テーマ「冬に見つける庄内の隠れた可能性」</p> <p>パネリスト:①伊藤 秀樹 氏(株式会社清川屋 代表取締役) ②岩間 奏子 氏(酒田商工会議所女性会会長) ③佐藤 一則(酒田YEG会長) ④高橋 剛 氏(一般社団法人元気インターナショナル理事長) ⑤千葉 秀樹 氏(酒田共同火力発電株式会社取締役社長) ⑥永田 斉 氏(酒田市地域創生部長) 全6名(五十音順/肩書当時)</p>
平成31年2月9日(土)	<p>－ 2月例会 新年会「若者の地元定着を考える事業」 / 於:ル・ポットフー</p> <p>分析「アンケートからみる若者の地元定着意識について」酒田YEG副会長 秋野 哲平</p> <p>勉強会:「酒田在住の若者の事例発表 ～ 酒田で“社会人する”という選択 ～」</p> <p>①阿部 彩人 氏(酒田市八幡地域・地域おこし協力隊) ②齋藤 麻友 氏(株式会社CARRY)</p> <p>③山崎 侑斗 氏(東北プライド 代表)</p> <p>テーブル・ディスカッション:テーマ「若者が定着しやすい地域となるための施策とは?」</p> <p>(1テーブル1提言)</p>
令和元年5月18日(土)	<p>－ YTS山形テレビ「提言のひろば」 出演 酒田Activate委員長 矢野 慶汰</p> <p>第2464回テーマ「庄内-成田便 就航へ ～ LCC効果で庄内新需要開拓 ～」</p>
6月14日(金)	<p>－ 政策提言勉強会 / 於:酒田産業会館</p> <p>テーマ「日本の地方都市における二次交通の現状」</p> <p>講師①:酒井 達朗 氏 (山形県企画振興部・総合交通政策課長)</p> <p>講師②:山田 拓徳 氏 (国土交通省・道路局参事官付課長補佐※肩書当時)</p>
7月29日(月)	<p>－ 政策提言発表会・手交式 / 於:マリン5清水屋ミュージアムホール</p> <p>講話:丸山 至 氏(酒田市長)</p>
8月2日(金・予定)	<p>－ CIEE国際教育交換協議会「TOEFL iBT会場誘致勉強会」 / 於:酒田市役所</p> <p>講師:根元 斉 氏(CIEE国際教育交換協議会 TOEFL事業部)</p>

※1) DP: 総トン数:115.875t / パッセンジャー定員:2706名、クルー定員:1100名。

※2) ①②③ともに日、英、中、西語等マルチリンガル(多言語)にて対応。

# 庄内で仕事をする社会人による 学校訪問について

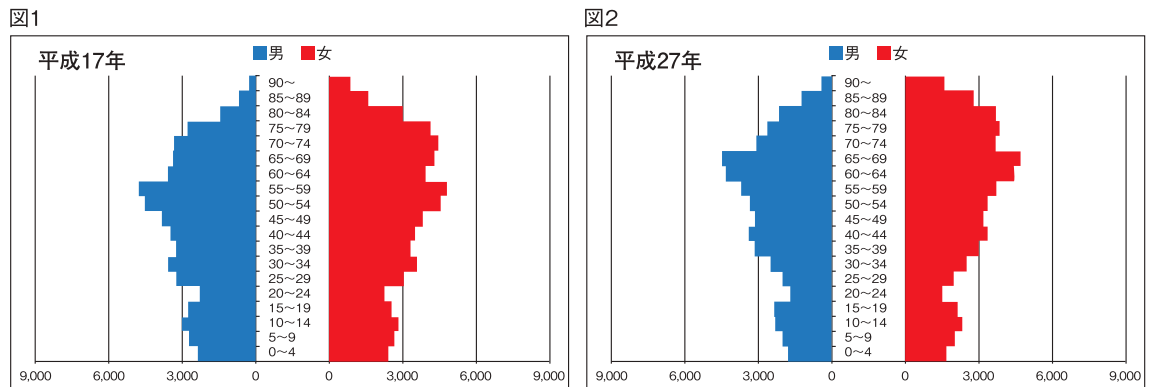
## 提言内容

酒田市内の学校教育施設に、地元で活躍する社会人を派遣する「庄内で仕事をする社会人による学校訪問」により授業のカリキュラムやオリエンテーション等に組み込むことを提言する。

## 提言理由

酒田市の人口推移は、平成17年117,577人から平成27年106,244人と約10%減少しているが、その中でも20歳から39歳までは同じ期間中に24,670人から18,449人と約25%減少しており、全体の人口減少率に比して、若者の人口減少率の割合が大きく上回っているという調査結果がある。

[図 1.2] 平成17年と平成27年の人口ピラミッド



酒田YEGでは日頃より「若者の地元定着」の問題について議論を行う中で、平成29年11月に酒田市内在学の高校生367名に対し、進路意識に関するアンケート調査を実施した。

その中の就職希望者の回答のうち、県外企業への就職希望は全体の30%であるのに対し、庄内地区の企業への就職希望者は35%という回答結果を得た。その結果から、地元に残り就職したいという高校生は多いのだが、一方、個別意見として「地元には働きたいと思う職が少ないと感じる」「県外就職を志望するが、いつかは酒田に帰りたい」という回答が多かった(※2)。

※1 酒田市HPの国勢調査による年齢階級別人口資料より

[http://www.city.sakata.lg.jp/shisei/toukei/toukeishiryou/toukei\\_nenrei.html](http://www.city.sakata.lg.jp/shisei/toukei/toukeishiryou/toukei_nenrei.html)

※2 酒田YEG平成29年度対外交渉委員会「若者の地元定着に関するアンケート」結果より



「若者の地元定着を考える事業」の様子



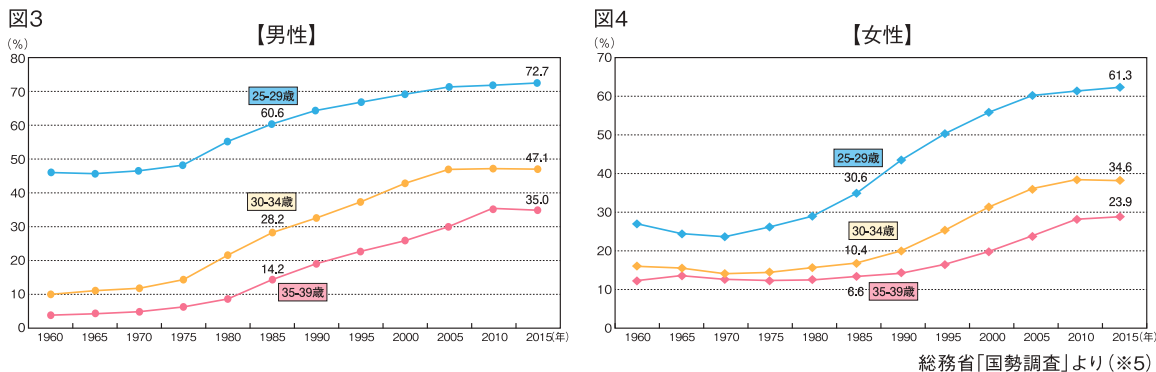
「酒田三十路式」の様子

また、県外就職者の半数はUターンをするかどうか未定としたまま県外へ就職する現状も本アンケートから明らかになっている。

このような状況の中、平成30年に酒田市では初となる「酒田三十路式」が開催された(※3)。

84人が参加(うち2割が県外からの参加)したこのイベントにおいて参加者からは「首都圏で共働きをしていて、子どもの面倒を見られるのも夫婦のみなので、実家など人手に頼れる環境で子育てをしたいと思っているが、実際はどうなのか。」「首都圏と地元では収入に差があるかもしれないが、物価にも差がある。実際にUターンしてからの生活環境はどうなのか。」といった声があがった。現在の日本において、30～34歳は、男性はおよそ2人に1人(47.1%)、女性はおよそ3人に1人(34.6%)が未婚であり(※4)、既婚でも子どもがまだ小さい世帯も多く、拠点を定める選択がしやすい年齢、つまり人生のターニングポイントであると言える。

【図 3.4】年齢別(5歳階級)未婚率の推移



※3 2018年度初開催された1988-1989年生まれで酒田市にゆかりのある人なら誰でも参加できるイベント。主催は酒田三十路式実行委員会、後援は酒田市、酒田商工会議所、公益社団法人酒田青年会議所。初代実行委員会委員長を酒田YEG 酒田Activate委員会 副委員長の鈴木麻友(現齋藤麻友)氏が務めた。

※4/※5 総務省「2015年国勢調査」より  
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2018/30pdfhonpen/pdf/s1-3.pdf>

Uターンを希望しても行動に移せない理由は、情報交換の機会や庄内地方で働く人の生の声を聞く機会の圧倒的不足であり、この地域において解決すべき課題である。以上のことから、学生の時に実際に地元で仕事や子育てをしている先輩の話聞く機会を設けることで、地元定着志向の若者の増加を見込むことができ、卒業後県外で就職や結婚、子育てをしている人がふと「地元」を思い出した時にUターンを決める重要な判断材料の一つとなる。

### 【実施方法】

本提言において訪問の対象とする教育機関は小学校・中学校及び高等学校とし、それぞれ異なる成長段階であることから、それぞれの成長段階に即した内容で行うべきである。中学校で行うべき理由は、地区内の各高等学校における進路選択に直結する専門課程の整備を踏まえて、その前段階から自己の進路を考える機会を与え、それをもとに進学先の高等学校を検討して、子どもに対し多様な選択肢を与えることになるためである。酒田市内在学の高校生については、親の意思が子どもの進路決定に反映されている生徒の割合が25%と比較的高い。それよりも年少である中学生においては、さらに親の意思が子どもの進路決定に反映されている生徒の割合が高くなると予想される。したがって、中学校での学校訪問を行う場合には、親子教室のような形で保護者が関与できるものとしていきたい。また、小学校で行うべき理由は、思春期を迎える前の時期、将来に対してまだ曖昧模糊とした夢や希望を抱きつつも、各学科の専門知識を吸収しはじめ小学校高学年への訪問と対話が有益であるためである。派遣する社会人は、酒田の地元経済人である酒田YEGメンバーを始めとして、幅広い分野の地元社会人を検討する。

庄内で仕事をする社会人の話を聞いた直後に地元就職を選択肢の一つとして考えるのももちろんだが、より長期的な人生設計の中で選択肢の一つとなり得るのであれば、酒田市が政策目標として掲げる「酒田市に住み続けたいと思う市民を増やす」(※7)ためにも、若年者が酒田市の企業について知る機会を設ける事は、必要不可欠だと考える。

### 【効果】

- (1) 地元就職か県外就職からの将来的なUターンか、進路選択を考える学生にとって検討材料となる。
- (2) 話をする側(派遣側)にとっても、企業PR、親世代への会社知名度の向上、そして将来的な新卒の採用で有利に働くなど、様々なメリットがある。
- (3) 県外就職をした若者が長期的な人生設計の中でUターンを選択肢の一つとして考えるようになる。
- (4) 地元で働く事の良さを伝える事により、話をする側、聞く側ともに「地元愛」に目覚めるきっかけになる。

※6 酒田YEG平成29年度対外交渉委員会「若者の地元定着に関するアンケート」結果より(既出)

※7 酒田市HPの平成31年度酒田市予算特集より

<http://www.city.sakata.lg.jp/shisei/zaisei/yosan.html>

# クルーズ船寄港時の二次交通問題対策としての 市民(学生)参加型サイクルバンク制度創設について

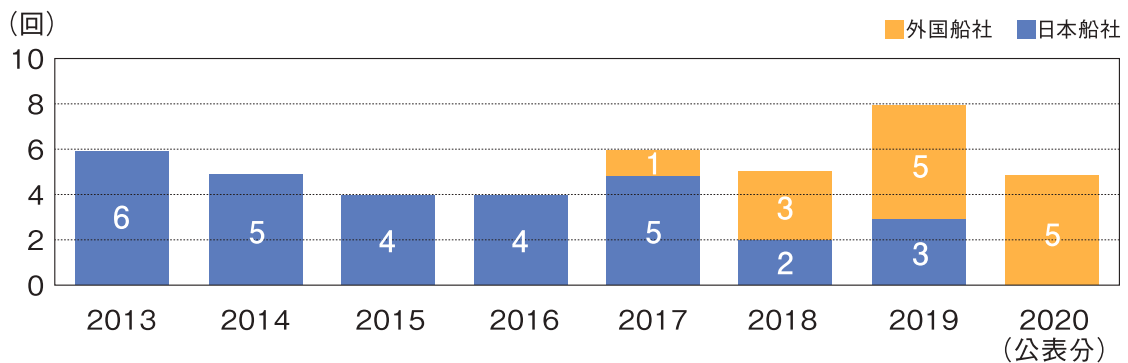
## 提言内容

近年増加傾向にある酒田港に寄港するクルーズ船の下船客に対し、慢性的な供給不足にある酒田市の観光用自転車を酒田市民(酒田市内在校の学生)から募集し、下船客に対して継続的かつ安定的なレンタサイクルの供給を図り、クルーズ船寄港時の観光自転車面における二次交通問題解消を目指すことを提言する。

## 提言理由

酒田市において「クルーズ元年」と呼ばれた平成29年を皮切りに、酒田港へ外国籍クルーズ船寄港が増加している。

[図1] 酒田港へ寄港するクルーズ船の寄港回数の推移



国土交通省 東北地方整備局 酒田港湾事務所HPより(※1)

下船客たちからは、市内中心部(以下中町)におけるレンタサイクルが人気を博しているが(※2)、自転車を貸し出す窓口となっている中町の観光案内所では供給できる自転車数は毎回わずか50台程度で、開所30分ほどで全台貸し切りとなる状態が続いている(※3)。

※1 酒田港へ寄港するクルーズ船の寄港回数の推移  
 国土交通省 東北地方整備局 酒田港湾事務所HPより  
[http://www.pa.thr.mlit.go.jp/sakata/topics/pdf/topics\\_20190221\\_1.pdf](http://www.pa.thr.mlit.go.jp/sakata/topics/pdf/topics_20190221_1.pdf)  
 平成29年度1回、平成30年度3回、令和元年度5回、令和2年度5回(公表分)

※2 令和元年7月現在、無料となっている。対応は酒田市。

※3/※4(次項)平成30年度ダイヤモンドプリンセス寄港時に中町観光案内所の受付を酒田YEGが行った際のデータに基づく。



自転車1台あたりの貸出時間は平均3時間、利用者数は1日1名に留まっており(※4)、複数の下船客に使用してもらうことは極めて難しいのが現状となっている。

そこで、当日供給可能な自転車数を増やし、酒田市内のレンタサイクル面における観光対応力の向上を目指す。

平成30年度ダイヤモンドプリンセス寄港時には中町へのシャトルバス利用者は約1,700名で、酒田市HPでは令和元年度の同船寄港時、中町へ来るフリー客を500~1,000人と見込んでいる。

[図2] クルーズ船寄港の例

寄港日	平成31年4月23日(火)	
入港時間	午前7時	古湊ふ頭1号岸壁
出港時間	午後6時	
主催者	プリンセス・クルーズ	
今回の寄港地	横浜-(終日航海)-釜山(韓国)-(終日航海)-酒田-青森-宮古(岩手)-(終日航海)-横浜	
今回の乗客	約2,700人	(欧米系の方が多いと見込まれます。街なかへ来るフリー客は、500~1,000人程度を見込んでいます。)
今回のクルー	1,100人	※昨年度シャトルバス利用者実績=約1,700人
オプションツアー	情報公開 ○	羽黒山と善寶寺、酒田市内ハイライト、最上川舟下りと庄内の歴史、加茂水族館と酒田、酒田の歴史と文化、遊佐と鳥海山、酒蔵見学

酒田市HPより(※5)

### 【実施方法】

自転車は保護者の同意を得た学生から募集する。当面の対象はクルーズ船寄港時に中町で課外授業(クルーズ船対応、おもてなし対応)を受ける生徒たちとする。令和2年春のクルーズ船初回寄港時実施を目指し、その際は、中町レンタサイクル常備数50台に加え、さらに学生から募集した50台を借り受け、合計100台を常備することを目標とする。

乗客への貸出時間は、寄港日に港と中町をピストン運行するシャトルバスの第1便が市街地に到着する時刻から、港へ向けて最終シャトルバスが中町を出発する時刻までとし、受付窓口までの持込み、引取りが可能な学生を対象とする。やむを得ない場合はスタッフによる引取も検討する。

下船客への貸出の前後に自転車安全点検作業を実施する。点検作業は酒田市内の自転車組合への委託を検討する。点検作業にかかる実費等については今後、利用者からレンタサイクル料として受け取るか、国土交通省等に補助金を申請し、そこから充当するなど、貸し手の負担とならないことを原則とする。安全面においては交通ルールの異なる国籍の利用者に対して、日本の交通ルールを示した安全マニュアルを作成し、受け渡しの際に理解を得た上で貸し出す。

※5 酒田市HPより(2019.4.12リリース) [http://www.sakata-cci.or.jp/info/h31.info/cruise\\_20190423DP.pdf](http://www.sakata-cci.or.jp/info/h31.info/cruise_20190423DP.pdf)

現在酒田市が貸し出しの際に行っている「貸出し票」に免責事項を付け加え、下船客には自己責任で使用してもらう旨一筆(サイン)を頂くとともに、不測の事故に対応可能なしかるべき保険の100%加入を目指す。保険費用についても先述の点検費用同様、費用全般または一部を利用者から徴収するか、補助金等でまかなうことを目標とする。

当活動においては準備計画、現場での監督をする担当組織を設置し、将来的に酒田市内において恒常的に貸し出し可能な自転車のデータベース化を図る。

また、利用者に対して貸し手(=酒田市民)が歓迎のメッセージを専用のボードなどに記入し、ボードを自転車に取り付け、借り手(下船客)と貸し手が実際に顔を合わせることがなくとも、コミュニケーション可能な方法を図る。この歓迎ボードは英語等外国語への翻訳も検討する。



レンタサイクル利用者



レンタサイクル受付窓口の様子

### 【効果】

- (1) クルーズ船下船客は、自転車を利用することにより、酒田市街地に集中する観光スポットを効率的に、数多く巡ることが可能となる。結果、クルーズ船下船客の酒田についての認識、理解をより深めることができる。自転車は多くの観光スポットの中から、自らのテーマに沿った散策ルートを自由に設定することができるため、より主体的な観光が可能となり、訪問満足度の上昇につながる。
- (2) 買い出しが必要なクルー、買物目的の下船客について地域においてより多くの購買消費が期待できる。
- (3) 市民参加型であるため「酒田港クルーズ船お出迎え・お見送り隊」(※6)と同様、市民のクルーズ船下船客への理解やサポーター意識の醸成が期待できる。

※6 クルーズ船寄港に際し、市民とともに酒田らしいお出迎えやお見送りで歓迎することで、酒田港のイメージアップならびにクルーズ船の寄港定着を図ることを目的として、「酒田港クルーズ船お出迎え・お見送り隊」を設置。事務局は酒田市地域創生部商工港湾課。

[https://www.city.sakata.lg.jp/sangyo/omotenashi\\_kaigi/index.html](https://www.city.sakata.lg.jp/sangyo/omotenashi_kaigi/index.html)

- (4) 活動場所の中町まで自転車を利用して集合する課外授業中の学生から借り受けることにより、所有者から自転車収集・運搬する手間を省略できる。また、クルーズ船寄港日以外の街中への恒常的な駐輪スペース確保の必要性がないので、その分のランニングコストを省略できる。
- (5) 自転車組合所属の整備士による安全点検を無料で実施することにより、所有者にとって日常の自転車使用における安全性向上が図られる。
- (6) 貸出自転車のデータベース化により、今後のクルーズ船対応はもとより、近い将来、クルーズ船以外での酒田の観光客増加に伴う二次交通需要の高まりに応じたコミュニティ・サイクル案などへ、ノウハウとして活用できる。
- (7) 貸し手から借り手への歓迎メッセージボード取り付けにより、お互いに顔を合わせることがなくても交流を図ることができるため、市民のおもてなし精神を伝えることができる。また、それにより借り手がより丁寧な車両の使用を心がけることに繋がり、整備点検コストの削減効果が期待できる。
- (8) レンタサイクルの拡充により、移動距離に応じた二次交通の使い分けが進む。タクシー、バス、レンタサイクル等、下船客のニーズに合った利用が可能となる。
- (9) 将来的に、市民が自転車を貸出す際にポイント付与のシステムを作り、貯まったポイント数に応じて市民が恩恵を享受できるシステムが整備できれば、積極的な貸出(リピーターの創出)が期待できる。

トーフル

# グローバルな英語理解力を測る「TOEFL®」 試験会場の酒田市への誘致について

## 提言内容

国際的に多くの国における教育機関の入学選考に使われており、近年は日本の大学入試等にも広く採用されている、グローバルな英語理解力を測るテストTOEFL® (Test of English as a Foreign Language - 外国語としての英語試験 の略)の山形県初の試験会場を酒田市内へ誘致することを提言する。

## 提言理由

世界で年間約72万人、日本国内(以下、国内)で約8万人の受験者を抱える英語テスト「TOEFL」は約130ヶ国9,000以上の高等教育機関で入学選考基準として採用されているに留まらず、大学等でのコミュニケーションに必要な英語能力を測定するテストとして、日本を含め世界中で定着している。海外の大学留学だけでなく国内の大学入試科目にも採用されており、同時に国際認定資格としても認知されている(※1)。Listening(聞く)・Reading(読む)・Speaking(話す)・Writing(書く)の4要素から英語能力をスコアで採点され、0-120点満点のスコアとして判定される。

[図1] 国内国公立入学試験におけるTOEFLスコア利用状況

[図2] 国内入試における利用形態 (CIEE TOEFL® 日本事務局HPより※2)

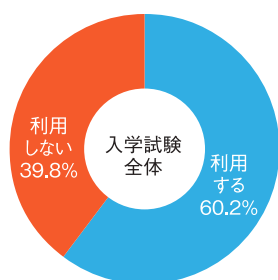


図1

—利用有無—

(単位:校)

	国立大学	公立大学	私立大学	合計
利用する	62	30	245	337
利用しない	16	40	167	223

有効回答数:560大学

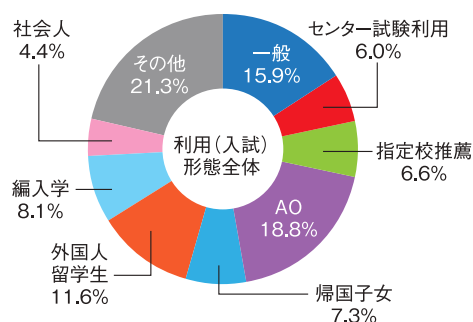


図2

—利用(入試)形態—

(単位:校)

利用(入試)形態	国立大学	公立大学	私立大学	合計
一般入試	16	4	113	133
センター試験利用入試	4	1	45	50
指定校推薦入試	1	1	53	55
AO入試	23	10	125	158
帰国子女入試	14	9	38	61
外国人留学生入試	38	13	46	97
編入学入試	19	6	43	68
社会人入試	4	4	29	37
その他(※)	25	14	140	179

有効回答数:337大学(複数回答可)

※1/Phillip James English Academy Homepageを参照: <http://www.phillip-james.com/y150805/>

※2/<https://www.cieej.or.jp/toefl/toefl/report.html>

このTOEFLは、山形県内に試験会場がなく、県内の受験者は、仙台・秋田・東京等の会場へ受験しに行くのが現状となっている(※3)。また、受験者数の世界的な増加に伴い、新潟会場では直行便利用により韓国から受験生が来日するため、新潟県民が受験できない問題が生まれている(※4)。庄内在住の受験者にとっては地元での受験が可能となり、移動・宿泊等の負担が大幅に軽減され、留学準備や日本の大学入試に必要なテスト受講が有利になる。



Copyright © 2015 by Educational Testing Service.  
All rights reserved.  
All trademarks are the property of their respective owners.

#### 【実施方法】

TOEFLの主催者は米国の教育試験サービス(ETS)で日本では、プロメトリック社が窓口になっている。

TOEFL試験会場になるためには、アメリカ合衆国在日大使館・広報文化交流部ACJ「日米教育委員会」から推薦を受け、会場となる学校や機関がプロメトリック社に申請し、審査を受けてその要件を満たす必要がある。TOEFLの会場の要件としては、会場施設を用意すること、インターネット接続可能なPC端末を最低15台以上用意することが前提となる。試験当日、試験担当官1名とそのサポート1名の合計2名が試験運営のために必要となる。試験会場運営者には、PC端末数(=受験者数)に応じて運営費用が支給される。試験回数は、定められた年間スケジュールの40回ほどの中から、可能な日程を選ぶ形式で最低年間3回以上と定められている。開催曜日は通常、土曜日か日曜日となっている。会場選考審査は1次審査から3次審査までであり、1次と2次は書類審査、3次審査では現地調査が行われ、審査期間は最短で2~3週間ほどとなっている。

誘致にあたっては、酒田市(国際交流協会等)・候補会場・酒田YEG等関係各所メンバーから構成される準備委員会を設置し、市内での気運高揚や具体的な誘致のプロセスを積極的にサポートする。

#### 【効果】

酒田市に試験会場を誘致することで、地域において以下のような中・長期的な効果が期待できる。

- (1) 交流人口拡大による地元経済の活性化 - 受験生が来酒することにより、外食費用、宿泊費(前泊の場合)、お土産代などの滞在費を酒田で費やすこととなる。
- (2) 地域における英語教育の啓発 - 英語圏の高等教育機関や社会で通じる英語をより身近に感じることができることにより、英語学習に対する意識の向上が期待できる。
- (3) 国際教育都市酒田としてのイメージ・アップと会場施設の国際ブランド化 - 酒田市・会場共にTOEFL会場・都市というステータス(≒ブランド)を得ることによる知名度の上昇が望め、同時に地域の国際教育活動の実績のひとつとなる。

※3/4 2016年日米教育委員会(The Education USA)が酒田で説明会を行った際、関係者からの聴き取りによる。新潟会場においては地元で受験できない新潟の受験希望者が東京へ向かわなければならない状況を、酒田に会場を設置することで受け皿とし、いわゆる「受験難民」問題の解消の一助とすることも可能である。

- (4) 受験生の交通費におけるコストの削減 - 例えば酒田市在住の受験者が仙台会場へ向かう場合、往復交通費はおよそ6,000円であり、秋田会場へは往復でおよそ13,000円かかり、東京会場に至っては往復27,000円かかる(※5)。また、先述の新潟県民が地元で試験を受けられず、東京の試験会場へ向かう場合、新幹線で所要約2時間である一方、新潟-酒田間も在来線特急で所要時間こそほぼ同じ2時間であるが、往復運賃で、新潟-東京間は約20,000円、新潟-酒田間が約10,000円となり、酒田で受験した方が交通費は半額程度に抑えることが可能となる。

#### 【会場候補】

現時点での酒田市内における試験会場候補は複数ある。一つは以前より日米教育委員会と交流関係があり、今年度よりグローバル学科が立ち上げられたこと等で国際教育に力を入れている酒田南高等学校で(※6)、もう一カ所は酒田市にキャンパスを構え、すでにセンター試験等の開催実績がある東北公益文科大学である。国際認定資格の試験会場となることで得るメリットは先述の通りである。

さらに、酒田商工会議所が入る予定の新酒田産業会館(仮称)を会場候補とすることも可能である。商工会議所では簿記や珠算検定などの試験会場運営のノウハウがあり、先述の諸条件が整う可能性も高い会場である。その際は、酒田市産業振興まちづくりセンター「サンロク」(※7)に運営の協力を要請する。

※5 酒田-仙台駅間は運行バス会社共通の片道3,400円、往復6,200円。酒田-秋田会場間(秋田空港隣の国際教養大学)はJR(酒田-本荘間)、バス(本荘-空港)間を使用し、6,400円。酒田-東京間の交通費は羽越線新潟経由(特急いなほ/上越新幹線を利用)で算出。(いずれも令和元年7月12日現在)

※6 2016年に全国の政令指定都市以外では初となる「アメリカ留学説明会」が、酒田市で先述の日米教育委員会により開催された。会場は酒田市国際交流サロンと酒田南高校の2か所だった。

※7 創業や農商工連携、新商品、サービスの開発、販路開拓支援、女性活躍の推進などを支援するコワーキングスペースとして平成30年4月にオープン。

## あ と が き



酒田商工会議所青年部  
副会長 **秋野 哲平**

本日ここに、酒田YEGとして初めての試みである政策提言書が完成し、丸山酒田市長・酒田商工会議所弦巻会頭にお渡しする貴重な機会を頂戴したことに対し、まずは御礼申し上げます。

酒田YEGでは、これまで酒田まつりや酒田日本海寒鱈まつりなど地域の特色ある行事に積極的に参加する一方、昨今の地域課題でもある「若者の地元定着」や「外航クルーズ船対応」を考える各種例会事業を企画運営してまいりました。これらの事業から得たかけがえのない経験が今回の提言の基盤となっております。

提言書の完成に際し、私たちが肝に銘じておくべきこと、それは「提言書の完成はゴールではなく、スタートである」ということです。私たちの「指針」の最後にもある通り「行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務」です。提言にとどまることなく、この「責務」を果たすことにより、あるべき地域の姿に向けて歩を進めていくことをここに宣言いたします。

結びに、各種例会事業で地域の事例や課題をご教示いただいた講師の皆様、折に触れて政策提言の必要性をわかりやすく説いてくださった日本YEG政策提言委員会の皆様、提言活動の立ち上げに理解を示し提言書作成の過程では的確なアドバイスと励ましをくださった酒田商工会議所弦巻会頭・白崎専務理事他、関係者の皆様、そして何より、曜日昼夜の別なく提言文の作成に注力いただいた酒田Activate委員会矢野委員長をはじめとするメンバーの皆様など、この提言にかかわるすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

酒田商工会議所青年部

